〔千葉医学　92：51 ～ 55，2016〕

〔話題〕「グローバルヘルス」への千葉大学の取り組み －日独共同集中講義（ベルリン）・国際機関研修（ジュネーブ）に参加して－

庄司竜麻[1)]　中岡宏子[2)]　戸髙恵美子[2)]　柏原　誠[3)]
志賀里美[2)]　川波亜希子[2)]　古賀千絵[2)]　森　千里[2,4)]

要　旨

近年，グローバルヘルス（国際保健）への関心が高まり，多国間の連携や多分野の協働による研究アプローチの重要性が増してきた。このような背景のもと，予防医学センターでは千葉大学・金沢大学・長崎大学による先進予防医学共同大学院の設置事業および千葉大学スーパーグローバルプロジェクトによる千葉大学ベルリンサテライトキャンパス構想に向けての取り組みを行っているが，これらの準備の一環として欧州諸国にある大学，研究機関との国際連携を進めている。2015年８月から９月にはドイツ・ベルリンにてシャリテ－ベルリン医科大学との日独共同集中講義を，スイス・ジュネーブにてWHOを始めとした国際機関研修を開催した。集中講義には千葉大学およびシャリテ医科大学を中心として様々な分野から学生が参加し，グローバルヘルスをテーマとした講義と学生らによるディスカッション・発表が行われた。国際機関研修では現在各国際機関が取り組んでいる課題の紹介等が行われた。予防医学センターは今後も日独共同集中講義等の開催を通し，共同大学院事業およびベルリンサテライトキャンパス構想の進展に取り組む。

Key words: 予防医学，公衆衛生，グローバルヘルス，先進予防医学共同大学院，国際機関，千葉大学ベルリンサテライトキャンパス

略語一覧: BSPH（Berlin School of Public Health），WHO（World Health Organization），UNICEF（United Nations Children's Fund），UNOG（United Nations Office at Geneva），IFRC（International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies），ILO（International Labour Organization），UNHCR（United Nations High Commissioner for Refugees）

[1)] 千葉大学大学院薬学研究院微生物薬品化学
[2)] 千葉大学予防医学センター
[3)] シャリテ－ベルリン医科大学千葉大学ベルリンオフィス
[4)] 千葉大学大学院医学研究院環境生命医学

Tatsuma Shoji[1)], Hiroko Nakaoka[2)], Emiko Todaka[2)], Makoto Kashiwabara[3)], Satomi Shiga[2)], Akiko Kawanami[2)], Chie Koga[2)] and Chisato Mori[2,4)]: Chiba University's approach to "Global Health" －A report of "Joint Summer School with Charité BSPH" and "Study tour to International Organizations in Geneva"－.

[1)] Department of Microbiology and Molecular Genetics, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba University, Chiba 260-8675.
[2)] Center for Preventive Medical Sciences, Chiba University, Chiba 260-0856.
[3)] Chiba University German Center Berlin Office, Charité-Universitätsmedizin Berlin.
[4)] Department of Bioenvironmental Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba 260-8670.
Phone: 043-226-2017. Fax: 043-226-2018. E-mail: cmori@faculty.chiba-u.jp

はじめに

近年グローバルヘルス（国際保健）に対する関心が高まっている。この傾向は昨今のエボラ出血熱の蔓延をきっかけとして顕著になり，グローバルに人々の健康を考えることが一層重要となった。このような状況に立ち向かうためには多国間での連携および医療分野に政治・経済学など多分野の協力を組合せた新しいアプローチが必須であり，これらを研究する分野であるグローバルヘルスの発展と人材育成が期待されている。

予防医学センターでは，千葉大学・金沢大学・長崎大学による先進予防医学共同大学院の設置事業および千葉大学スーパーグローバルプロジェクトによる千葉大学ベルリンサテライトキャンパス構想に向けて取り組みを行っているが，この活動の一環として欧州諸国にある大学との国際連携を進めている。2014年度には，ドイツの首都ベルリンにて公衆衛生や予防医学に関する計３回の日独シンポジウムを開催した。また，2015年８月には，同じくベルリンにてシャリテ－ベルリン医科大学公衆衛生大学院（Berlin School of Public Health: BSPH）とグローバルヘルスをテーマとした共同の集中講義を行い，更に同年９月にはスイス・ジュネーブにてWHOを始めとした国際機関視察研修を開催した。

2014年度における日独シンポジウムおよび共同大学院設置事業計画の背景については千葉医学雑誌90巻４号および同雑誌91巻３号において紹介させて頂いたので，興味のある方はこれらを参照されたい。

本稿では2015年度の集中講義および国際機関視察研修の様子ならびに共同大学院設置事業とベルリンサテライトキャンパス構想の進捗・今後の予定について報告させて頂く。

Ⅰ．シャリテーベルリン医科大学との共同大学院集中講義

日独共同集中講義は2015年８月24日から28日にかけて，ドイツの首都ベルリンにおいて千葉大学予防医学センターおよびシャリテ－ベルリン医科大学BSPHの共催でシャリテ－ベルリン医科大学ウィルヒョウキャンパスを会場に開催された。千葉大学からは本センター長である森千里教授，WHOに出向中の戸髙恵美子教授，近藤克則教授を始めとして多くの教員と学生が参加した。ドイツ側からは，デュッセルドルフ大学の島田信吾教授およびJames Adjaya教授，アムステルダム大学のStuart Blume教授，アイオワ大学のPaul Greenough教授，BSPHのChristine Holmberg博士を講師として迎え，広くヨーロッパ，アフリカから多くの学生が参加した。また，参加者の専門は，医学・薬学など医療分野の他，社会科学，人類学など多岐に渡るものであった。

集中講義冒頭では，森教授より日本とドイツの交流の歴史についての講義があった。両国の医学に関する交流は森鷗外の時代から始まる約130年以上に渡るものであり，本集中講義開催に至った背景にはこのような歴史があること，そして，本集中講義を通して今後の両国の連携が更に進むことを期待していることが述べられた。

集中講義のテーマはグローバルヘルス（国際保健）であった。グローバルヘルスの理解および課題を認識するために，具体的に予防接種と環境問題を題材に講義・ディスカッションが展開された。最初に数名からなるグループに分かれて，グローバルヘルスについて議論したいテーマを提議しあった後，発表により共有を行った。その後は先生方からの講義が続いた。戸髙教授からは環境問題が子どもの健康に及ぼす影響について，島田教授からは日本とドイツにおける高齢化問題とその違いについて，近藤教授からは日本における

写真１　集中講義最終日における筆者のグループのディスカッションの様子

写真２　BSPHを会場に先生方および学生など集中講義関係者の集合写真

人々の経済的・社会的背景と健康の関係（Social Determinant of Health）について，Blume教授およびGreenough教授並びにHolmberg博士からは予防接種における政治的および経済的側面についての講義が展開された。全講義終了後には，再び数名からなるグループに分かれて，講義の要約と今後の課題についてディスカッションをした後，全員の前で発表を行い，集中講義は終了した（写真１）。

写真２は本集中講義最後に撮影した参加者による集合写真である。参加者はこの４日間を通し，１つのテーマに対して専門や文化・考え方の異なる講師，学生と議論する機会が多くあった。その過程で，参加者達それぞれが，今後の国際保健分野において自身の専門に求められている能力を見極め始めているようであった。今回の共同集中講義は各々が今後に必要な課題を見出す上で，非常に重要な機会であったと思われる。今後もこのような機会が続けて開催されることを願う。

Ⅱ．国際機関視察研修

国際機関視察研修は2015年８月31日から９月２日にかけて，スイス・ジュネーブにおいて各国際機関の協力のもと開催された。千葉大学からは森教授，WHO出向中の戸髙教授，横手幸太郎教授，渡邉誠理事を始めとした多くの教職員と学生が参加した。また金沢大学からは石崎有澄美助教が参加された。

視察研修はWHO，UNICEF，UNOG，IFRC，ILO，UNHCRにて施設見学および講義が行われた（写真３）。講義ではその各機関の歴史や役割

写真３　WHO正面玄関前にて撮影した研修参加者の集合写真

に加えて，現在取り組んでいる課題等も伺うことが出来た。例えばWHOでは，エボラ出血熱流行への対策についてや，対応のガイドライン作成の段取りを教えて頂いた。この他，今後，国際機関での就職を目指す学生へのアドバイスとして国際機関で働くに至った経緯や働いた際のライフスタイル等についても伺うことが出来た。加えて，８月31日には在ジュネーブ国際機関日本政府代表部にて国際機関に勤める日本人職員の方との交流会が開催された。交流会は国際的に活躍している先生方に直接質問をしてアドバイスを頂く非常に貴重な機会となった。

この機関視察研修および交流会の機会は，参加学生にとって将来の具体的なキャリアを考える上で非常に貴重な経験になったと思われる。

Ⅲ．先進予防医学共同大学院事業および千葉大学ベルリンサテライトキャンパス構想の進捗

予防医学センターは2016年度，シャリテ－ベルリン医科大学のミッテキャンパス内にサテライトオフィスの開設を計画している（写真４）。さらに今後も日独シンポジウムおよびBSPHとの共同大学院集中講義などの開催を通し，先進予防医学共同大学院の教育プログラムを推進していく予定である。

これらにより今後の千葉大学のドイツおよびヨーロッパでの活動が加速的に進展していくものと思われる。

おわりに

今回の共同集中講義および国際機関視察研修の成果の１つは人材育成である。共同集中講義への積極的な参加には，背景となる専門分野が大きく異なる集団に対して英語でディスカッション・発表を行う必要があり，これらの経験は今後のグローバルな活動を目指す上で参加学生に非常に貴重なフィードバックを与えた。また，前述の通りであるが，ディスカッションを通し参加者は自身の専門に求められている能力および今後に必要な課題を見出す契機となった。更に続く国際機関視察研修での経験によりその課題はより明確なものとなったと思われる。

本センターのこれまでおよびこれからの活動が，今後の本学のグローバル化の基盤となり，日独大学間の新たな架け橋となることを願う。

謝　　辞

今回の共同大学院集中講義を共催していただきましたシャリテ－ベルリン医科大学BSPHの皆様，国際機関視察研修の開催にあたり協力して頂きましたWHO，UNICEF，UNOG，IFRC，ILO，UNHCR，在ジュネーブ国際機関日本政府代表部の皆様に深謝申し上げます。また，中村裕之先生を始めとする金沢大学の先生方，長崎大学の先生方にご助言，ご協力を頂戴しましたことを感謝いたします。最後に今回の共同集中講義およ

写真４　シャリテ－ベルリン医科大学ミッテキャンパス内のサテライトオフィスにおける集合写真

び国際機関視察研修に参加して頂いた多くの先生方および学生の方に厚く御礼申し上げます。

SUMMARY

With an increased interesting to "Global Health", a global cooperation, multidisciplinary approaches to the research have become more important. Under the above-mentioned circumstances, Center for Preventive Medical Sciences (CPMS) of Chiba University has been trying to promote the global cooperation with Universities in Europe, as a part of plan for "3 universities united graduate program of public health formed by Chiba, Kanazawa and Nagasaki Universities" and to establish "Chiba University Berlin Satellite Campus (supported by the project of Super-Globalization of Chiba University)". In the end of August and the beginning of September 2015, joint summer school co-organized by CPMS and Berlin School of Public Health (BSPH), Charité-Universitätsmedizin Berlin was held in Berlin for four days and a study tour to the International Organizations in Geneva such as WHO, UNICEF was held for three days. In the summer school, variety of students from different majors attended, received the lectures and had discussions on the issue of Global Health. In the training course, the ongoing tasks of the International Organizations were introduced. CPMS will continue to have co-organized courses in the future, aiming to establish the 3 universities united graduate program and Chiba University Berlin Satellite Campus.